

「大町大好き！」多様な人たちの 役割と居場所がある地域づくり研修事業

一般社団法人 徳広エネルギー工房
〒398-0001 長野県大町市平 8503-4

助成事業の概要

『「大町大好き！」多様な人たちの役割と居場所がある地域づくり研修事業』

障害者をはじめとする様々な社会的弱者の人たちが、それぞれ役割を持つ居場所がある地域作りをすることを目的に、大町市社会協議会職員さんをはじめ、地元の福祉関係機関で働く有志の人たちと、研修会、学習会、座談会、情報発信などを通して仲間を増やし、私たち法人の新しい事業としても繋げ、地域の次の若い世代にバトンが渡せるようにと企画。

コロナの長期化により、申請時に計画していた複数の講師を招いての2泊3日宿泊研修は、何度か調整を試みたものの、叶わなかった。その代わりにオンラインでの研修会・学習会、座談会などを増やし、年間20回実施。屋外フィールドワークを8月9月2月と3回実施。計画にはなかったが、こちらから6件の福祉施設を訪ねることも実施した（支出額には計上せず）。

大町の魅力は何か、魅力を地域福祉とどう繋げるか、どのように広く知ってもらうか、zoom学習会や現地フィールドワークを通して1年間で学んでいった。成果として「大町大好き！」をテーマに、地域福祉のタブロイド紙発行を目指した。

事業の成果

1) zoom によるオンライン研修会・学習会・座談会を以下のように実施

5月21日(金) 17時～18時30分(キックオフ)

6月14日(月) 16時～18時(農泊座談会)
6月19日(土) 17時～19時(移住勉強会と交流会・行政主導)
7月13日(火) 19時～20時30分(地元職員座談会)
9月1日(水) 16時～18時(地元職員座談会)
9月4日(土) 16時～18時(ユニバーサル宿泊施設研修会)
9月6日(月) 16時～18時(地元職員座談会)
9月8日(水) 17時～18時30分(未来の施設学習会)
9月29日(水) 17時～18時30分(未来の施設学習会)
10月6日(水) 17時～18時30分(未来の施設学習会)
10月11日(月祝) 17時～18時30分(地元職員座談会)
10月25日(月) 12時～13時(情報発信学習会)
10月27日(水) 19時～20時(中間反省会)
11月21日(日) 10時～11時30分(地元職員座談会)
12月27日(月) 17時～19時(情報発信学習会)
1月4日(火) 17時～19時(情報発信学習会)
1月6日(木) 17時～19時(研修講師との座談会)
1月25日(火) 17時～19時(情報発信学習会)
2月7日(月) 13時～14時(研修講師との座談会)
2月18日(金) 13時～15時(研修講師との座談会)

談会)

3月29日(火)18時～19時(反省会)

2) 現地でのフィールドワークショップ・学習会を以下のように実施

8月11日(水祝)11時～13時 14時～18時
(大町の魅力発見フィールドワークショップ)

9月10日(金)11時～13時 14時～18時(大町の魅力発見フィールドワークショップ)

1月18日(火)10時～12時 15時～17時(東京都町田市1件、東京都府中市1件)

1月19日(水)10時～12時 13時～16時(東京都調布市3件)

2月1日(火)9時～12時 13時～16時(地域の得意を活かす学習会・静岡県御殿場市)

3月2日(水)13時～18時 3月3日(木)9時～12時 13時～17時(大町の魅力発信フィールドワークショップ)

3) 上記を通して、タブロイド紙を制作・発行、行政窓口などに配布

フィールドワークと情報発信学習会を通して12月より制作開始、3月に印刷入稿、3000部印刷発行を実施。

成果の広報・公表

今回の助成事業でタブロイド紙を制作、3000部作成することができた。専門家の力を借りながら、自分たちは地域とどのような繋がりがあるか、また今後、誰と繋がって地域で何をしたいか、対外アプローチを試みながら視覚化することができた。地元にいるとわからない地域の魅力を再発見することもできた。制作を通して、私たちが地域福祉の担い手になっていくことを自覚し、幅広く知っていただけた成果はとても大きかった。このタブロイド紙には、大町市観光協会、市役所

の福祉課、子ども支援課、定住促進課、SDGs推進担当などで協力をいただき、置いていただけるので、地域福祉の広報と理解促進に繋げていきたい。

また、画像や映像の作成方法も学習会で学び、先駆的な施設を訪問することもできたので、福祉を知らない地域の人たちにも知ってもらうきっかけにできるよう、今後も積極的に映像発信をしていきたい。

今後の展開

当初はユニバーサルな農泊施設の実現を目指していたが、コロナの長期化で途中断念。地域福祉への理解と仲間を増やすことを重点に切り替え、講師と近隣の福祉事業所とでフィールドワークやzoom学習会、座談会を増やして、地域福祉のあり方を話し合い、地域の魅力を発信できるようにして行った。そのため当初は予想していなかった、福祉の枠を超えた様々な行政窓口や民間との繋がりができた。

今後は成果としてのタブロイド紙配布や映像配信をしながらこの関係性を深め、地域福祉の担い手の中心となれるようにしていきたい。

具体的には、各行政窓口や民間と連携しながら、障がいのある方々と森林循環型作業ができる私たちの強みを活かし、地域住民や観光客向けのワークショップや体験会開催、オープンカフェ実施を予定している。

また、当初宿泊研修をメインに計画していたこともコロナ長期化で叶わなかったが、zoom学習会を増やし、複数の屋外フィールドワークに切り替え、若手が研修に出向く機会などできたことで、かえって今後の協力関係者作りに繋がったと感じている。定期的に発信をすることで活動の認知度を上げていきたい。